**尾瀬の植生**

この地域の特徴的な地形的・地理的・気候的条件は、900種以上の植物を擁するいくつかの生態系を生み出してきました。尾瀬は、北方系・南方系・太平洋型・日本海型という四つの異なる植生域が交わる場所にあります。

山林

尾瀬ヶ原を取り囲む山々は、大部分が落葉樹に覆われていますが、落葉樹の種類は生えている場所の標高と土壌に応じて異なります。例えば、黄味がかった白の樹皮を持つブナ（*Fagus crenata*）は鳩待峠近辺に大量に生えており、山ノ鼻に向かって下る道は、ミズナラ（*Quercus crispula*）の森を通っています。標高1,600メートル付近では、オオシラビソ（*Abies mariesii*）とオゼトウヒ（*Picea jezoensis subsp. hondoensis*）などの針葉樹がより豊富に見られます。

林床にはほとんど光が届きませんが、植物に関心の高い人は*ギンリョウソウ*（*Monotropastrum humile*）を見つけられるかもしれません。小さな白い花を咲かせるこの植物は、他の植物のように光合成を行わず、代わりに菌類から栄養を得ています。

至仏山は火山ではなく、大部分が蛇紋岩でできています。蛇紋岩という名称は、蛇の皮のような見た目にちなんで付けられました。蛇紋岩はマグネシウムと鉄を多く含むため、この岩は多くの種類の植物にとって生育の助けとなりません。至仏山でも育つ植物に、尾瀬にちなんで名付けられたオゼソウ（*Japonolirion osense*）があります。オゼソウはカトウハコベ（*Arenaria katoana）*やホソバヒナウスユキソウ（*Leontopodium fauriei var. angustifolium*）（写真参照）と共に、「蛇紋岩植物」と呼ばれています。

湿地植物

春と夏の間、湿原は花で覆われます。ミズバショウ（*Lysichiton camtschatcense*）が最初に姿を現し、5月下旬から6月中旬にかけて湿原の多くの場所を白く覆います。しかし、白い花のように見えるものは、実際には仏炎苞と呼ばれる葉です。7月中旬に明るい黄色がかったオレンジ色の花を咲かせる*ニッコウキスゲ*（*Hemerocallis esculenta*）も、訪れる人々に根強い人気があります。Daylilyという英語の名前が示唆する通り、ニッコウキスゲは一日しか花が咲きません。茎に繊細な花をつける*イワショウブ*（*Triantha japonica*）は、氷河期から生き残っている高山植物です。

尾瀬でよく見られるその他の植物には、スポンジのようにたくさんの水を蓄える*ミズゴケ*（bog moss）や、*ワタスゲ*と呼ばれるcottonsedge (*Eriophorum vaginatum*)などがあります。

沼や小さな湖で育つ植物には、*ヒツジグサ*（*Nymphaea tetragona*）、そしてハスに似た葉をもち黄色い花を咲かせるオゼコウホネ（*Nuphar pumilum var. ozeense*）があります。